平成２７年度第１回四日市市総合教育会議（議事録）

平成２７年４月２２日

午後　２時　０分　開会

○舘政策推進部長　定刻になりましたので、ただいまから四日市市総合教育会議を開催させていただきます。

本日は、ご多忙のところご参集いただきまして、誠にありがとうございます。

私、司会進行を務めさせていただきます四日市市の政策推進部長の舘と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

座って失礼をいたします。

お手元に事項書があろうかと思うんですけれども、この事項書に基づきまして、順次進めさせていただきたいと思います。

１　構成員紹介

まず、１番の構成員の紹介というところでございます。まず、事務局から構成員の皆様のご紹介をさせていただきます。どうぞよろしくお願いします。

○荒木政策推進課長　事務局の荒木と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、早速でございますが、お手元に四日市市総合教育会議構成員名簿ということで配付させていただいてございます。この名簿に基づきまして、順不同ではございますが、ご紹介申し上げます。

四日市市教育委員会委員長、渡邉悌爾様。

○渡邉教育委員長　渡邉でございます。よろしくお願いいたします。

○荒木政策推進課長　四日市市教育委員会委員、加藤和則様。

○加藤教育委員　加藤でございます。どうぞよろしくお願いします。

○荒木政策推進課長　四日市市教育委員会委員、杉浦礼子様。

○杉浦教育委員　杉浦でございます。よろしくお願いいたします。

○荒木政策推進課長　四日市市教育委員会委員、松崎稚弓様。

○松崎教育委員　松崎でございます。よろしくお願いいたします。

○荒木政策推進課長　田代和典四日市市教育委員会教育長。

○田代教育長　教育長の田代です。よろしくお願いします。

○荒木政策推進課長　最後になりましたが、田中俊行四日市市長。

○田中市長　どうぞよろしくお願いします。

○荒木政策推進課長　以上、６名でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○舘政策推進部長　ご紹介は以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

２　四日市市総合教育会議の設置に関する要綱（案）について

○舘政策推進部長　それでは、事項書の２番でございます、四日市市総合教育会議の設置に関する要綱（案）につきましてに移ります。

今回の本会議でございますけれども、ご承知のように、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、これの改正に基づきまして設置されるものでございまして、会議に関する基本的な事項といったものは既に法律に定められているというところでございますけれども、会議開催に当たっての必要事項を定めるために、お手元にございます案でございますが、要綱を作成させていただきました。これにつきまして、まず、要綱につきまして、事務局から説明をさせていただきますので、要綱をご覧いただきたいと思います。要綱（案）でございます。

○荒木政策推進課長　ご説明申し上げます。

四日市市総合教育会議の設置に関する要綱（案）ということで配付させていただいております。

まず、主な項目につきましてご説明申し上げます。

まず、趣旨でございますが、第１条で、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第１条の４第１項の規定に基づきまして、四日市市総合教育会議を設置することとしてございます。

協議・調整事項といたしましては、第２条でございますが、大綱の策定及び教育を行うための諸条件の整備、地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策、及び児童、生徒等の生命または身体に現に被害が生じ、またはまさに被害が生じるおそれがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき施策に関しまして、協議並びに事務の調整を行うことといたしてございます。

第３条構成以下、第１０条まではご覧いただいたとおりというふうになってございます。

なお、第７条でございますが、この会議につきましては原則公開ということになってございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

説明は以上でございます。

○舘政策推進部長　この要綱（案）につきまして、何かご不明な点等ございましたらここでご意見を頂戴したいと思うんですが、ご異議ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○舘政策推進部長　それでは、この要綱に基づきまして今後も会議を進めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

先ほど事務局がご説明いたしましたように、第７条にもございますように、会議は公開ということになってございます。本日は報道機関の方も見えておられます。また、取材とか撮影もしていただくということになっておりますので、どうぞご了承いただきたいと思います。

また、本日の会議の議事録でございますけれども、後日公開をさせていただくと、ホームページに掲載させていただく予定になっておりますので、こちらについてもご了承いただきたいと存じます。

３　大綱について

○舘政策推進部長　それでは、戻っていただきまして、事項書の３、大綱についてに移らせていただきます。

昨年、先ほど申しました地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正ということがあったわけですが、この中で、地方公共団体の長は、総合教育会議の協議を経て、地域の実情に応じ、教育、学術等の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるということとされたところでございます。今後、この大綱の策定のため、この場で協議、調整を行うに先立ちまして、まず、皆様方、自己紹介を兼ねて各委員の教育に対する思いや理念、そういったところをお話しいただいて、議論の端緒とさせていただきたいと思っております。

それでは、市長から順番にお願いをしたいと思うんですが、発言をよろしくお願いしたいと思います。

○田中市長　改めて、皆さん、こんにちは。

各教育委員には、大変お忙しいところ、第１回の総合教育会議にご出席をいただきましてありがとうございます。また、日ごろから四日市の教育行政にさまざまな観点からご助言や、またご意見等を賜っておりまして、重ねてお礼を申し上げたいと思います。

先ほど舘政策推進部長が申し上げたとおり、国の教育行政にかかわる法律の改正、制度の改正によって、今年度から総合教育会議という組織が立ち上げられて、今日はその記念すべき第１回の会議ということになります。皆さんと私が文字どおり同じテーブルを囲んで、忌憚のない議論をしながら、よりよい四日市の教育を目指していきたいと、このように考えておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは、着席で失礼します。

それでは、冒頭ですので、私から、教育観と言うとちょっと大げさですけれども、教育に対する私の基本的な考え方を申し上げて、その後、各教育委員からのお考えをお聞きできればというふうに思っております。

昔から、皆さんご存じのように、教育は国家百年の大計というふうに言われております。教育というのは、イコール人づくりということだと思うんですけれども、この人づくりこそがやはり国の未来、あるいはまた地域の未来、四日市にとりましては市の未来、そういったものを左右する、政策の中でも最も基本になる重要なテーマだというふうに思っております。教育のあり方、あるいは教育の中身によって、その進め方によって、未来の社会が魅力と活力に満ちた豊かなものになるかどうか、そこに住んでいる人が真に幸せを感じる、幸せを実感できる、そういう社会になるかどうか、それが決まってくると言っても過言ではないと私は思っております。

そういう意味からも、これまでも教育を重視してきましたけれども、この総合教育会議の立ち上げを１つの大きな契機としまして、最重要テーマの１つとして私自身も全力を尽くしていきたいと思っております。

そのために、四日市の教育の大きな柱として私が考えておりますのは３つございます。その１つ目は、社会人になっても通用する問題解決能力の養成、これに力を入れていきたいと思っております。単に知識を暗記するということではなくて、得られた知識や経験を生かして、活用して、どんな困難な問題、課題に直面したとしても、自らその問題の解決方法を考え、そして、そこから解決に導いていくという、そういう能力を養っていくことがまず肝要だというふうに思っています。

それから、もう一つ、豊かな人間性の育成ということも大変重要だというふうに思います。文化とか芸術に対する感性を磨いて知識や教養を高める、これも大変重要なことですけれども、私が特に重視したいのは、自然体験であるとか社会体験であるとか、こういった実体験を通じて命の大切さを知り、そして、人に寄り添うことのできる優しい豊かな心

を育む、このことも社会に貢献するということにもつながりますし、また、自分自身の人生をも充実した幸せなものとすることにもつながってまいります。そういう意味で、豊かな人間性の育成も２つ目の柱として考えております。

もう一つは体力の強化。最近の子どもたちは、体格は非常によくなって、体は大きいんですけれども、基礎体力が低下しているということが言われております。そこで、スポーツの振興ということも十分に考えながら、強靭な体力と精神力を養う、そういったことにも重点的に力を入れていきたい。

今申し上げた３つ、問題解決能力の養成、豊かな人間性の育成、体力の強化、これを私は四日市の教育の３本柱として、皆さんと議論をしながら、教育のまち四日市というふうに全国に高く評価されるような、そんな積極的な、四日市ならではの、四日市独自の取り組みを進めていきたいと強く決意もし、また考えてもおりますので、教育委員のお知恵、お力をこれまで以上に貸していただくように重ねてよろしくお願いを申し上げたいと思います。

とりあえず、私から、基本的な考え方を述べさせていただきました。

以上です。

○舘政策推進部長　どうもありがとうございました。

それでは、名簿の順に、渡邉委員長、よろしくお願いしたいと思います。

○渡邉教育委員長　教育委員長になりましてから２年目、教育委員になりましてからもう７年目になろうかと思います。気持ちを新たに、ぜひ一緒に市長とよろしく、議論を深めて、四日市の教育を１歩でも２歩でも成果が上がるように頑張っていきたいと思っています。

では、座らせていただきます。

市長から、四日市ならではの教育の目標ということについてお話がありましたが、私は、実は大学で経済学が専門であります。随分古くから市の社会資本整備であるとか、産業振興とか、そういうことについて随分かかわってまいりました。そういう中で、四日市ならではということでありますと、１つは、やはりコンビナートに代表されるような大企業、東京から赴任してこられる、そういうような人が非常にたくさんいらっしゃる、そういうまちなんですね。

さらに、リタイアされてからもそのまま四日市に住み続けられるという方も非常に多いということを私は前の市長たちからもお伺いしているんですね。だから、やっぱり四日市

ならではということでいうと、３０万都市以上に外部に立派な教育に対する識見も持ち、市長がおっしゃったような社会体験とか出前教育だとか、そういうようなところにも随分識見を持っていらっしゃる、力を持っていらっしゃる人が非常にたくさんいると、そういうことをぜひ大いに生かしていくと。既に現在でも行われているわけでありますけれども、さらにそれを全市的に行われるような、そういうことによって非常に子どもたちにリアルな、勉強してどうなるのか、勉強する必要はこういうことなんだなということが、何のために勉強するのかということが肌で実感できるような、そういうことが身につけられるようないい環境に本当はあるんだと思うんですね。その辺をやはり生かし切っていくといいますか、そういうようなことが１つ、このような新しい体制になったからこそぜひ進めていっていただきたいなと。そういうふうにできるような環境整備をできるといいなというふうに思います。そのことは四日市版コミュニティスクールというようなことのさらなるステップアップといいますか、そういうことにもつながるだろうということが１点です。

それから、私、大学生の教育に随分かかわってまいりました。これは杉浦委員も一緒なんですけれども、そういう中で、自分の問題意識というものがなかなか育っていないという若者が結構多いわけです。だから、やはり、先ほど何のために勉強するのか、勉強って楽しいねというような、一生をかけて学び続けていけるような、そういう力を、やはり基礎が初等教育、中等教育の時期につけないとなかなかそうはいかないわけで。だから、そういった意味で基礎的な初等・中等教育の大切さというのを非常に感じているわけです。そういったことから、いろんな目標の中でよく使われる言葉なんですが、生きる力、共に生きる力、大変そのとおりなんですけど、私は、それを生き抜く力、一緒にやり抜く力といいますか、そういうふうなものを学力にしろ、体力にしろ、あるいは友達と一緒に頑張っていこうというようなことになる、そういう力にしても、とにかく生き抜く、やり抜く、そういう中で培われてくるということを思うわけです。

そういった意味では、やはり課外学習であるとか総合学習であるとか、いろんなそういう学校の外に出る経験、これもやはり大変大事なので、そういう中で友達と一緒に苦労してやり抜いたという達成感、そういったものを感じられれば、それが学力なんかにも弾みがつくという気がするんですよね。ぜひそういうような体験というものを大切にして、やり抜く、生き抜くというようなことをぜひちょっとでも進められるようなふうになればいいのではないかというふうに思います。

そのためには、やはり環境整備ということが非常に大事で、最近は、ともすれば非常に

学習指導要領などで教科書のボリュームなんかも非常に豊かにというか、非常にボリュームも多くなった。そのために、なかなか現場などでは、盛られた教育内容を本当にちゃんとこなせるかどうか、そこらが私は非常に心配をするところなんですよね。そこらは現場の先生たちが一生懸命上手にやっていらっしゃることだろうとは思うんですけれども、そういうような心配もやはり最近は私はあるわけです。

そういった意味で、そういう心配というのは、特に現場の先生たちが生き生きと子どもたちと向き合って、そういう力を発揮していただくような、そういう環境整備というのは本当に大切なことなので。その環境整備のためにはやっぱり相当サポートも必要だし、それからお金の面の、投資といっていいのかどうかわからないんですけれども、手当といいますか、そういうことも一段と大事になるというふうに思います。それから、人のサポートということで言えば、外部の人がさらに上手に支え役となって、先生たちがやりやすいような、本当に教育に打ち込めるような、そういう体制づくりをつくっていくというようなこと、この辺が非常に大きな、現実的に大事なことではないかというようなことを思っております。

基本的に市長のお考えと軌を一にするところであろうというふうに思っています。

以上でございます。

○舘政策推進部長　ありがとうございました。

続きまして、加藤委員、お願いします。

○加藤教育委員　加藤和則でございます。委員をさせていただいて２年強になりますが、私はずっと教育に長く身を置かせていただきましたので、もう教育は終わりかなというふうに思っておったんですが、こういう機会を与えていただいて、地域、住民の目線から教育を見ると、うーんということもたくさんありますが、最終的にはやっぱり教育が信頼されることが何よりも重要なことなのかなというのを改めて感じている昨今でございます。

じゃ、座らせていただいて、少し思いを述べさせていただきますが、ちょっと目先のことになりますが、昨日も行われた学力・学習状況調査でございますが、あれであまりにも平均点をとることを目指してしまうと、やはりそれから上、人間って不思議なもので、一旦そこまで到達してしまうと進歩がとまってしまうということもございますので、ぜひ、私は、当然委員長もおっしゃられて、あるいは市長もおっしゃられたように、子どものときにつけておくべき知識、技能、それともう一つ、私は態度があると思うんですが、そういったものをきちっと身につけさせる上で１つの尺度にはなりますけれど、あの平均を求

めてしまうのはいかがなものかなと。そこにプラスアルファでぜひ、四日市だからこそできる教育のやり方というのが私もたくさんあるように思っています。

例えば、この間オープンしていただいた四日市公害と環境未来館についても、やはり持続可能な社会の実現というのはまさにこれからのキーワードですし、ちょうどここからの景色を見ますと、四日市というのは素材産業といいますか、これは世界に誇れるすごい企業等が、電子にしても石油化学にしても育って、あるいは育てていただいておるというか、そういう盤がありますので、ぜひ素材産業のような、そして自分が四日市に生まれた誇りを持てるとか。

一方、とはいうものの、自然も非常にまだ豊かに残っております。市長がおっしゃられた体験ということは、非常にまだ近くで思う存分できる場がございますので、やっぱり学力、知識、技能、そして態度という基礎的な学力の育成とともに、ぜひ四日市のキーワードとなる、いわゆる四日市だからこそできる教育のあり方というのを求めていけば、やはり自分のまちに誇りの持てる子どもが育ってくれますし、それは数年後、あるいは数十年後にはまた四日市の素晴らしい人材になってくる、あるいは日本のすばらしい人材に育ってくれるということで期待をしています。

何よりもこうして市長を囲んでというと失礼でございますが、こういう機会ができたということは、本当に教育委員会制度が大きく変わって、市長を先頭に教育についてトップで考えていただく場というのができたというのは、我々教育委員にとっても、あるいは私の歩んできた学校現場の校長以下の職員にとっても非常にありがたいことだなと思います。ぜひ具体的な成果が出るような会議に今後も進めていっていただきたいと思いますし、私も微力ながらそういう方向で努力をしてまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○舘政策推進部長　どうもありがとうございました。

それでは、杉浦委員、お願いいたします。

○杉浦教育委員　杉浦でございます。私も加藤委員と同時期に委員にならせていただきました。今、まだ高田短期大学でキャリア育成学科の教員といたしまして、ほぼ１００％、三重県内に就職をする学生の、本当に社会に出る出口の部分で教育をさせていただいておりますので、先ほど市長のお話にもありましたけれども、社会に通用する力というふうな言葉もございましたので、そういった切り口から、今、日ごろ教育に携わって感じていることなどをお話しさせていただけたらなというふうに思っております。

では、座らせていただきます。

早速なんですが、社会に通用する力ということで、先ほど市長が問題解決能力の向上とか解決に導いていく能力というふうにおっしゃいました。もちろんそういったところもそうですし、２つ目におっしゃいました、実は、豊かな人間性というものを身につけて社会に出ていくことで、事前にそういった問題を未然に防ぐというようなところにもつながっていくというふうに考えますので、非常にこの２つ、リンクしているのではないかなというふうに感じております。非常に社会に送り出す一歩手前の学生と接していて重要かなと思うのが、問題解決能力にもかかわってくる汎用的な能力、コミュニケーション能力とか人を思いやる心とか、そういったところもそうだと思うんですが、そういった汎用的能力というのをやはり成長段階に応じて身につけておくということは非常に大切だなというふうに思っております。

ただ、すごく欠けているなというふうに思う力の中には、例えば想像力というのが欠けているなと思います。ただ、想像イコール芸術的な創造とか物をつくり込む創造ということではなくて、例えば何かトラブルが起きたときに、目の前の対応はできる、力がある、けれども、それだけではなくて、そちらがトラブルになったのであればこちらもちゃんと解決しないといけないんじゃないかという、目の前のことに起きた事象から発生することの想像力がすごくないなというふうに思います。それは本当に短時間で身につくものではなくて、物事が起きたときにとまって考えて、そこで想像を膨らませてやっていくということで、仕事のできる人につながっていくんだろうというふうに思うんですが、実はそういったところって生活力を高めるような指導をする中でもつけられる能力なのではないかなというふうにも思いますので、そういったところも今後の教育の中で問題解決にリンクしつつ、検討もしていきたいなというふうに思っております。

また、自己肯定感が低いなというのも感じます。その中で、対面して面談とかをしていく中で、自己肯定感を高めてあげたいなというふうにいろいろ引き出すような話をしたりするんですけれども、そういう子はしゃべってくれる成功体験がすごく少ないので、なかなか導き出せないなというような苦労もあります。例えば、豊かな人間性というところで、自然とか社会の実体験を通してというふうな言葉がありましたけれども、そういった中で小さな成功体験でも身につけることができれば自己肯定感につながり、それが学力の向上であったり体力の向上というものにもつながっていくきっかけになるのではないかなというふうな考えを持っております。

最後に、四日市ならではのということだったんですが、今、国も県も各地方も挙げて地方創生に取り組んでいるわけなんですけれども、やはり三重県内で人口の増減を考えたときに、さまざまな自然増減は各市町や行政単位でもプランがあるところなんですけれども、社会増とか社会減というようなところを考えたときに、やっぱり四日市は便利がゆえに入ってきてくれる人もいるんですが、出ていきやすい地域でもあると思うんですね。ちょっと電車で３０分行けば愛知県に行ってしまいます。最近、それこそ大学でもみえますので、すごく県外に出ていくというふうな傾向も強くなってきている中で、そういった社会増を、少し先の将来にというようなことを考えたときに、やっぱりちっちゃいときから四日市の魅力とか、四日市に役立ちたいとか、そういうような地域の魅力をしっかりと教えながら、地域の人材としての誇りを持つような教育というものもしていくことで、社会減に歯どめをかけられるような、そういう教育も考えていく時期ではないのかなというふうに考えております。

すみません、ちょっと長々となりましたが、以上です。

○舘政策推進部長　ありがとうございます。

それでは、松崎委員、よろしくお願いします。

○松崎教育委員　４月から教育委員という大役を仰せつかりました松崎稚弓でございます。私は、保護者という立場ですので、ほかの先生方、市長の皆様方のような素晴らしい教育観を即座に披露することはできませんので、用意してまいりました暮らしの作文を読むという形で本日はお許しいただきたいと思います。自分自身の子育てを振り返ってちょっとまとめてみましたので、それを私の教育観としてとっていただければ幸いでございます。

私には３人の娘がおります。この４月にそれぞれ小学４年生、中学３年生、そして聖母の家学園専攻科１年生の娘がおります。聖母の家学園に通う一番上の娘は重い知的障害と自閉症の障害を持っています。この春、西日野にじ学園高等部を卒業し、今の新しい環境にもなれて楽しい学生生活を送っています。私は、大学を卒業し、結婚して、仕事もそれなりにしてきましたが、３人の娘の子育て、特に長女の子育てから得たものというのは自分にとっての大きな財産であり、自分の人生の生き方や方向性を決めたかけがえのないものだと思っています。

長女は、生後８カ月で発症したてんかんの後遺症で、１歳半健診のときは言葉はなく、言葉の理解も全くありませんでした。家庭児童相談室を経て、あけぼの学園に３年母子通園をし、保育園に１年行きました。保育園のころまではとにかく１日中動き回り、思うよ

うにいかないと大泣きする非常に手のかかる子でした。小学校入学の際は当然当時の養護学校判定がつきましたが、地域で普通の子どもたちとかかわらせたいという親の思いを受け入れていただき、地元の羽津小学校の特別支援学級に入学しました。最初は、心配で１時間目は付き添いをし、先生やお友達に長女をわかってもらえるように努めました。先生方と細かい情報のやりとりは欠かさず、親の思いもしっかり伝えたおかげで、その後、安心して長女を学校に託すことができました。当時私は、できるだけ長女のことをみんなに知ってもらいかかわってもらおうと、放課後は毎日友達の家に私が付き添って遊びに行くか、うちに友達に来てもらうようにしました。そして、長女の誕生日のある夏休みにはお誕生会を、クリスマスにはクリスマス会を催し、クラスのみんなをうちに招待して、ほかの学年の子も来てくれたりといい交流の場となりました。この企画は、いつも娘と仲よくしてくれてありがとうという意味も込めていました。そのかいあって、同じ学年のお母さんとはほぼ全員と知り合いになることができ、子どもたちからも、またお母さんからも長女や私に声をかけてもらえるようになり、地域に受け入れてもらえる第一歩となりました。

中学でも小学校のときと同じく、娘を学校に預けっ放しにするのではなく、学校に対して両親ともども最大限の努力をすると約束しました。学校の行事には全て出席するようにしましたが、小学校と同様、主人も必ず出席するようにしました。時には、中学校では許されないことをしでかしてきて、親としてつらい思いもしました。でも、言葉のない重度の子を学校や先生はよくあんなに温かく受け入れてくれたと思います。学校中の先生が長女や私に校内で会うと必ず声をかけてくださったことはとても心強く感じられました。

その後、西日野にじ学園では作業がとても得意になり、ほぼ１人で学校まで電車に乗って行けるようになるまで成長しました。お手伝いも進んでしてくれ、私自身も大変助かっています。一方で、家での生活でのしつけや訓練も、時間も手間もできる限りかけてきたほうだと思います。

まずは、目を見ての声かけから始まり、いいこと悪いことの区別を小さいころから根気よく体に覚え込ませました。本人が嫌がって抵抗しても、時にはうまく興味をそらせながら、だめなものはだめという信念を曲げることなくかかわってきました。また、小さいころは少しでも刺激を与えて脳を活性化してやりたいという思いから、さまざまな訓練や音楽療法、東京での聴覚トレーニング、大阪での心理治療や気功、リトミック、ピアノ、習字、体操、スイミングなどの習い事、国内外への旅行や１人でのスキーツアー、いろいろな会に所属してどんどん外に出て活動をさせてきました。そのおかげで、どんな会所の人

ともすぐなじめ、新しい環境に楽に適応できる子になりました。これはこの子にとっての大きな財産になったと思います。学習も文字や数字、言葉の練習は、障害があればこそ人に助けを求めるすべとして最低限は必要と思い、小学校のころから毎日必ず机に向かわせてきました。今は中２から月に２回通っている東京での訓練のおかげで簡単な文を書いたり読んだり、言葉で意思を伝えられるようになりました。最近は本人も学習が楽しいようで、自主的に勉強しています。学習はただ学校任せにするのではなく、挨拶や歯を磨くことと同じように家でも毎日の習慣にするのが結局は早道かなと実感しています。

思い起こせば私の子育ては長女で始まり、今も長女中心ではありますが、長女を育てる中で下の２人の娘も大いに影響は受けてきました。いろいろなところに長女と一緒に連れて行きいろいろな体験をさせてきたおかげで、非常に好奇心旺盛で、何事にも積極的に頑張れる打たれ強い子に育ったなと思います。障害のある仲間と接する機会が多かったことと長女のお世話も毎日せざるを得ない環境で育ってきたので、その分、人の気持ちのわかる優しい子になってくれたかなと思います。

中３の次女は、今、部活命で楽しく学校へ通っています。生徒会の副会長や学級委員をする反面、おちゃめで人懐っこく、特技はピアノと習字で今も習っています。ようやく最近、受験を意識し始めたところです。小４の三女は、負けず嫌いで根性のある子で、とても本好きです。やはり学級委員をし、クラスのまとまりや学校のあり方、障害のあるお友達の介助の仕方まで私といつも議論をしています。２人からいろいろな話を聞けるのが私の楽しみでもあり、いつでも話をしたくなる環境づくりは大事だなと思っています。

最後に、障害があってもなくても教育の根本は同じだと私は思います。まずは親が、また周りが子を心から愛し、子どもの今の姿を受け入れること。ただ、それは何でも言うことを聞いてあげるとか好きなようにさせるのではなくて、将来社会の一員として本人なりの形で自立できるように、小さいころから生活の中で、また学習の中で努力をさせること、我慢させることを覚えさせる。また、母親が自分一人で子育てを背負い込まず、学校、地域、行政にもどんどん助けを求めて、親子ともにさまざまな人とかかわり、さまざまな体験をしていくこと、そして、助けてもらったことを当然と思うのではなく、そのお礼に何かの形で世の中にお返しをしていくことも大切だと思います。

本当に教育観になったとは思いませんけれども、暮らしの作文を読ませていただきました。失礼いたしました。

○舘政策推進部長　どうもありがとうございました。経験からの教育観ということで、十

分理解をさせていただきました。

それでは、最後に田代教育長、お願いします。

○田代教育長　私は、教育委員会に籍を置いて丸４年を経過しました。教育長になってからはちょうど３年５カ月になりますかね。１つのセクションに４年いるというか、これは非常に私の、前が行政職ですので、あんまりないと。いわゆる管理職になって２年ぐらいで変わっていましたね。その意味では非常にこの４年間、教育について本当にいろいろ思うところを考えさせられました。

最近思っていることを二、三述べさせていただきます。

座って失礼します。

教育長として今、いろいろ文部科学省の動き、私から見ますと、今の安倍内閣になって２年４カ月になります。教育は、大事な政策の大きな柱になっています、経済とともに。ちょうど発足当時から教育再生実行会議という組織ができました。多くの提言がなされて、それが中央教育審議会で議論されて施策が具体化されていくと、こういう流れですが、教育再生実行会議は、この３月の初めに第６次の提言を出しているという状況に今なってきています。ただ、それをわずかな期間の間に６次までの提言が出てきて、現在も今動いています。例えば、一例を挙げますと、道徳の特別教科化でありますとか、あるいは英語教育のいわゆる低年齢化、小さい子どものときから英語を教えると、こういったことも話題になってきています。ただ、残念ながら私自身個人で思うのは、たくさんいいことがあるんですけれども、どうも見ていると、学校の現場に十分それがおりて、現場の先生たちが議論して、やっぱりいいこと、それから、ここはこういうことに留意したほうがいいとかそういったことが十分反映、フィードバックされているかなというと、スピードが速くて、現場の先生たちが戸惑っている部分も多々あるのかなというふうに私は見ています。それをできるだけきちっと現場にかみ砕いて、理解していただいて、そして実践していただく、それが市町の教育委員会の役割の大きな１つでもあるというふうに思っています。

次に、教育というのを非常に考えさせられました。今も市長や各委員たちが教育についてこういうことだよということを言っていたから、私も同じように。私の言い方ですと、まず、学校で学んだことを社会で生きていく力につなげる教育が大事かなと。学校で学んだことを社会で生きていく力につなげる教育。そして、その子どもが実社会に出たときによい仕事ができるようになること。実社会に出たときによい仕事ができるようになる、こんなふうなことを自分なりに今思っています。

その中で最近特に思いますのは、子どもたちが何を学ぶかということももちろん大事ですが、今これから大事になってくるのは、子どもたちの勉強の仕方、それと努力の仕方、これをできるだけ学校時代に学ぶということがこれからは必要になってきはしないかなというふうに思います。

それから、いつも、この前も定例会で少し触れましたけど、今シンプルに学校の先生たちに踏まえてほしいのは、私は子どもたちが、当たり前のことが当たり前にできるような子どもをまず基本として捉えてほしいと。簡単に言うと、基本的な生活習慣とか生活リズムをきちっと整えてほしいと。具体的に例で言いますと、１つは、先生の話をちゃんと聞くということが１つ。それから、朝起きたときでも、お父さん、お母さんに挨拶がきちんと言える子。学校ではもちろん、道で会った地域の人にも挨拶をする。もう一つは、自分で考えたことをしっかり意見として言えると。こういったことがほかにもたくさんありますけど、３つぐらいをまずしっかりできるような子どもになってほしいと。これは、ごく当たり前のことですけど、人として大事なことではないかなと私は思うんですが、それが学力向上のまず基本になる、基礎になるというふうに思います。

何年か前から、私が教育に来る前からも言っていました、１つ、早寝早起き朝ごはんというのがあります。特に、最近、早寝早起きというのは、生活リズムが非常に大事だと。実は最近、この４月に読売新聞の新聞を見ていましたら、早寝早起きの正しいリズムというのが新聞に出ました。これが、実はいわゆる子どもたちの睡眠不足、慢性的な睡眠不足が体内時計を狂わせて、ひいては不登校にそれがなっているというのが結構あるということを聞いておりました。青森県のあるまちの小中学校でこれをきちっと学校と保護者、子どもたちでやった結果、不登校の子どもがかなり少なくなったと。３年ぐらいかけてやったら少なくなったという実践が載っていました。これもシンプルですけど、大事なことなのかなというふうに思います。

ちょっと長くなりますので、あとまた後ほどということで、よろしくお願いします。

○舘政策推進部長　ありがとうございました。

それぞれ委員の皆様方からいろいろ、思いや理念を語っていただきました。共通する部分もあれば、またいろいろとご議論いただくような内容もあったかなというような気がいたしますが、今後議論していく上でのまず参考にしていただければと思います。

なお、これから大綱をつくっていくわけでございますが、既に本市では、平成２３年度から３２年度まで１０年間を計画期間としました四日市市総合計画というものを策定して

おります。それから、もう一つ、教育委員会におきましては、ご承知のように、学校教育ビジョンというものを作成しておりますので、まずは、この２つの基本的な計画を事務局より説明をさせていただいて、その議論の種にしていただければなというふうな思いがございますので、事務局から順にご説明をよろしくお願いしたいと思います。

○荒木政策推進課長　事務局でございます。

先ほどのＡ３の資料に基づきましてご説明申し上げます。

まず私からは、本市の基本的な行政計画でございます総合計画についてご説明申し上げます。

Ａ３の表の上の部分に、総合計画のところから抜粋して掲載してございます。平成２３年度から３２年度までの１０年間の計画期間で、もう既に取り組んでございますが、平成２７年度、本年度はちょうど計画期間の中間となる年でございます。現行の総合計画におきましては、一番上のますのところでございますが、「心豊かな“よっかいち人”を育むまち」という基本目標を掲げまして、４つある基本方針の１つ目に、子どもたちが問題解決能力や豊かな人間性を身につけ、心身ともに健やかに成長できる効果的な教育を実践するとともに、特色ある教育を推進していくということとしてございます。

さらに、基本的政策といたしましては、最初の１つ目に、自ら学ぶ力と豊かな心を持ち、たくましく生きる子どもの育成という項目を掲げまして取り組んでいるところでございます。

簡単ではございますが、総合計画につきましては以上でございます。

○舘政策推進部長　続いて、学校教育ビジョンをお願いします。

○吉田教育監　教育監の吉田でございます。

今ご説明させていただきました真ん中より下の部分、実施計画（学校教育ビジョン）というところをご覧ください。

この学校教育ビジョンにつきましては、先ほどご説明いただきました総合計画との整合を図りながら進めていくということで基本的に考えております。平成２８年度からは第３次教育ビジョンということになりますので、この総合教育会議でのご議論、調整をされたことについての反映という形になると考えております。

まず、目指す子どもの姿ということで、キャッチフレーズというか、示させていただいています輝くよっかいちの子ども、それから、基本理念である生きる力、共に生きる力を育む、これを継承しながら、その下に書いてあります目指す子どもの姿を３つの視点で見

て、問題解決能力、また、先ほどから議論があります、豊かな人間性を育む、また健康・体力の向上、こういうようなことを柱としながら重点的なこととして６項目にまとめ上げて、そして、これをまとめてビジョンとして進めていきたいなというふうに考えております。

以上です。

○舘政策推進部長　ありがとうございました。

これから大綱についていろいろご議論をいただくわけでございますけれども、全くゼロからということではなくて、既にこういう計画がそれぞれ市、あるいは教育委員会であるわけですが、先ほどいただいたようなご意見も踏まえまして、これをベースにして大綱を策定していきたいと思っているところでございます。その点に関しまして、この内容のご質問でも結構でございますし、何かご意見がございましたら頂戴したいと思います。

まず、市長からご発言いただけませんでしょうか。

○田中市長　今、事務局から説明がありましたように、四日市市の平成２３年度から３２年度の１０年間の総合計画の中に、大きな四日市市が目指す都市像として、「みんなが誇りを持てるまち四日市」というものを掲げておりまして、その中で基本目標として「心豊かな“よっかいち人”を育むまち」という位置づけがあるんですけれども、先ほど加藤教育委員や杉浦教育委員がまちの誇りについて触れていただきましたが、この誇りを持てるまちということが心豊かなよっかいち人を育むということに、私は直結するのかなというふうに思いました。改めて思ったところですけれども、四日市で生まれ育って、あるいは四日市で教育を受けた子どもたちがこの四日市というまちに誇りを持ってもらって、また、たくましく心豊かに社会人として成長していく、そんな姿が私は理想の姿かなというふうに思いながら、このよっかいち人、ちょっと特殊な言葉ですけれども、そういうすばらしいよっかいち人を育んでいきたいなというふうに思っています。

先ほどの説明のように、総合計画であるとか既存の学校教育ビジョン、これをベースにして、それから、さらには私も含めて、先ほど教育委員がおっしゃった基本的な考え方、教育観といったようなものも反映しながら、この大綱を策定していただけると大変ありがたいなというふうに思っております。

法律の改正では、教育の大綱は首長が定めるものというふうにされておりますけれども、あくまでも私は、皆さんと四日市の教育の方向性についてベクトルを共有しながら進めていきたいと思っていますので、先ほども申し上げたように、四日市ならではの特色ある大

綱の策定にひとつお力添えをいただきたいなというふうに思っています。

大綱につきましては以上です。

○舘政策推進部長　ありがとうございました。

渡邉委員長、これをベースにして大綱をつくっていくことに関しまして何かご意見がございましたらお願いします。

○渡邉教育委員長　青い字で書かれている、いわゆる市長部局で説明されたものと緑のトーンで書かれている学校教育ビジョンを中心とした教育委員会から説明されたもの、これ、本当に軌を一にしている、ベクトル、方向性はほぼ同じような方向を示しているというようなことは言えますので、ただ、その中でやはり、ともすれば大風呂敷というか、ちょっと漠然と総花的になるんじゃなくて、めりはりをつける。どういう表現でここを打ち出すかという、そこのところでやはり議論を相当注力していくということによって四日市らしいというものが出来上がるというふうに私は考えております。

そういう中で、言葉としては全然何も出てなくてもちろんいいわけなんですけど、四日市は本当に環境先端都市になってきたというのを私自身一番誇りを感じておりまして、人様にも、他の地域の人にも、そういうことを、私、一生懸命、四日市ということを語るときには言葉として出しておるんですよ。ＩＣＥＴＴ、ここにいらっしゃる人は皆さんご承知だと思うんですけど、国際環境技術移転センター、平成の始めごろにつくったんですが、あれ、本当に私は四日市はいいことを、地域も国も巻き込んでいろいろやってくれているなと、やってくれるようになったなということをひそかに誇りに思っておりました。

最近聞いてみると、ややそれがアピール不足というか、ＪＩＣＡとの関係でしょうか、ちょっと最近元気がないという感じもするわけですけれども、やっぱりそういうことをこのまちはやり続けているんだということを、意外に言葉としてあまり地域の人から聞こえてこないんですよね。やはりあれは、途上国の環境課題を克服するために四日市のつらい過去の経験を語り、お示しし、そして、四日市に来てもらって、途上国の人たちに知ってもらって、こうすると環境問題を克服できる１つの道があるんだねというようなことを肌で外国人の方たちが体験してくれているわけですから。そういう努力をこの地域の先輩たちは一生懸命やってきたということは、やはりこれは本当に、ぜひみんなが認識共有をされてベースにしてにじみ出るようにしていただくといいなというふうに私は思うんですね。

そういった意味で、環境という言葉は、私も大学の役員をしているころに環境教育ということを随分一生懸命努力させてもらいまして、私の元勤めておった大学は、全国的に環

境先進大学というある種のブランドを確立できてきたなというふうに私も思っておるんですね。世間もそういうふうに評価してくれているんです。たくさん表彰もされていますからね。

だから、やっぱり環境を考えるということは社会の問題を考える。それから、具体的に理科ですね。理科教育にもなりますよね。みんなで一緒にやらないとなかなか前へ進まないようなことですよね。それから、みんなにわかってもらって、そして、そうだねと、じゃ、どうすればいいのというようなことを本当に地道に積み上げまして、初めて環境をよくするまちという、誇れるようなまちということになるわけで、そういう地域の人たちの、先人たちの努力というものを子どもたちがわかってくれるようになれば、これは大変な、教育の素材としても大変いいことだし、役に立つことだというふうに私は思いますよね。何かそういうようなやつをぜひ入れてほしいなという気がします。

○田中市長　私も全く同感で、今、渡邉教育委員長がおっしゃったように、四日市ならではの四日市らしい教育の大綱をつくるという意味では、この構想の中にそういう環境という切り口の文言も少し入れて策定したらどうかなと、今お話をお聞きして感じたんですけれども、結局は、四日市の強みというのは、持続可能な社会の実現ということで、産業の発展と環境保全、環境改善を両立してきたまちづくりの蓄積があるということと、国際貢献も今おっしゃったように行ってきたことです。それもあるし、産業都市として、半導体とかコンビナートもそうですけれども、自動車、電気、機械、食品、実に多様な産業が集積しているまちである、それも大きな強みであるので、そういう産業と環境というキーワードが四日市の強みでもあるし、それがひいては誇りを醸成するもとになるし、そういう意味でそういった文言も少し大綱の中に入れたほうがいいのかなというふうに思いました。

「四日市公害と環境未来館」というのがオープンしましたので、ＩＣＥＴＴもそうですけれども、環境未来館を大いに活用すべきかなと、その辺の誇りの醸成に向けて。せっかく、ＩＣＥＴＴもそうですけど、環境未来館もあっても市民の皆さんに浸透していなくて、浸透しても本来の趣旨がわかってもらっていないと誇りにはつながってこないので、その辺の発信力の強化というのも大事かなと思いますね。

○舘政策推進部長　ありがとうございます。

委員長がめりはりをつけたものにする、あるいは四日市らしい大綱にしていくという意味では、四日市らしいキーワードであったり、四日市らしい特徴を何か具体的なところで入れていくと。まずは、産業や環境というところで意見をいただけたらなと思います。

それでは、加藤委員、何かございますか。

○加藤教育委員　私もこの原案といいますか、今お示しいただいた案については、基本的に本当に、要は、四日市は早くから市長部局においても教育は大事にしていただいていましたし、これは１７年からでしたかね、四日市は早くからビジョンをつくって、それこそ県よりも早くこのビジョンができたという自負を、当時私もまだ現役でしたので持った覚えがあります。こういういいのがございますので、ぜひこれをさらに大きくこの機会に、今、市長も委員長もおっしゃったように、新しい視点は確かに幾つかありますし、ぜひ私も四日市ならではのことという、そういうのをぜひここに盛り込めるといいなというふうに思います。

ただ、その表現の中でちょっと私が気になるのは、例えば、心豊かなよっかいち人を育むとか、あるいは豊かな人間性の育成というのが私は究極の目的になってくるのかなというふうに思っていまして、特にビジョンで、たまたまここでの表現ですけど、学力向上があって、豊かな人間性の育成があって、体力と。知徳体できっと並べてあるのかなとは思うんですが、今のお話をずっとお聞きしていますと、学力向上とか体力の向上は、やはりその豊かな人間性の育成の１つの手段というふうに捉えたほうがいいふうな気が私はするんです。だから、心豊かなよっかいち人を育むということで、例えば基本方針に、子どもたちが問題解決能力や豊かな人間性を身につけと並列的に書いてもらってありますけれども、このあたりも、捉え方にはよるんですけど、豊かな人間性がやっぱりこれからの子どもたちにも今の子どもたちにもまずは要るのであって、やっぱり学力向上や体力向上なりスポーツを通してとか、そういったことはみんな手段になるのかなと。あるいはそれを通して育むと。だから、知徳体の並びでいくと、これがわからんでもないんですけど、豊かな人間性の育成という言葉が非常に包括的な大きな概念になりますので、そのあたり少し工夫を加えていただいて、広く市民なり、あるいは実際に教育をしていただく現場の先生方にとってももう少しわかりやすくというか、目指すものがぱっとくるという表現に工夫をしていただくといいのかなと。でも、書きぶりは、内容自体は大賛成でございますけど、ちょっとそんな気も持っております。

○田中市長　加藤委員のおっしゃることはよくわかるんですけれども、ここに学力向上と書いてあるのでちょっと誤解を与えるかもしれない。狭義の学力向上というふうに捉えかねない。だから、ここを例えば、社会人になっても通用するという言葉はちょっと置いておいても、問題解決能力という言葉を使えば、もうちょっと広い意味の、生きる力という

ことになってくるので、そういうふうに表現したらどうかなという気もする。

○舘政策推進部長　冒頭の皆様方のご意見の中には、社会で生きる力であるとか自立していくべきであるとか、そういうキーワードがたくさんございましたので、そういう意味の、学力はその中の１つということかもしれません。

○田中市長　ただ、今、世間一般で学力というと狭い意味にどうしてもイメージしてしまうので、これをちょっと工夫したほうがよい。

○舘政策推進部長　その辺を気をつけて使っていかないといけないですね。

○加藤教育委員　そういう意味では、どこかに四日市が目指す学力というのはこういうもんですよという、１つ言葉の定義といいますか、堅いですけど。そうなってくると、私はぜひ、態度とか関心、意欲というのも学力の１つに捉えていただくと四日市が目指すものがより明確になりますし、四日市ならではの教育をしていく上で、やっぱりそこにかなりいい環境がございますので、ぜひぜひ知識と技能プラス態度的なものをぜひ盛り込んでいただきたいなと思いますね。

○舘政策推進部長　わかりました。

実はこの後で学力向上のこともいろいろご議論いただきます。これは多分ある意味本当の意味での学力のことかもしれませんので、学力と、生きる力の表現の仕方、これを大綱の中で区別していくような形にしないといけないということでございます。

○加藤教育委員　それに今ちょっと逆らうようですが、よろしいですか。

舘さんがおっしゃった、３枚目の学力向上とここでいう学力とは、私は一緒にしたほうが。だんだん下に行って狭義になってしまうということではなしに、そのあたりがどうなんでしょうね。いわゆる算数や国語の力を学力と狭義に捉える部分もございますが、四日市はやっぱりそうではなしに、こういうところを学力と。

○舘政策推進部長　次の学力向上のところをもっと広い意味でやったほうがいいのではないかということですね。

○加藤教育委員　広げてしまってあれですけど、広い中で、例えば、当面、今年はこれです、来年はこれですというふうな、少し分割しながらやっていくほうが具体的な成果もあらわれますし、何よりも取り組むべき視点が明確になってきますので、そうしていただいたほうがいいのかなという、これは私の。

○舘政策推進部長　わかりました。４番のところでまた議論させてください。それでは、

杉浦委員、大綱につきまして何かありますか。

○杉浦教育委員　まず、この２つの部局からご説明いいただきましたものに関しては、方向性も同じですので全く違和感なくすっと入ってくるというのはあるんですが、この２つから１つの教育大綱という新たなものをつくるということですよね。

○舘政策推進部長　はい、これをベースにして作成します。

○杉浦教育委員　ベースにということでよすね。であればなんですが、やはりそのときに、学力向上という言葉もそうなんですが、少し類似したような表現がそれぞれに使われているというようなところがあったりというのはやはりありますので、先ほどそれぞれの委員が教育に対する思いをお話ししたときに田代教育長が、掲げてあっても現場の先生たちにかみ砕いてお話をし、実行してもらわないといけないというような認識があるというふうにお話をされたんですが、やはりこの大綱に関しても、読んだ人が誰でもが同じ共通の理解をして、そして大きなところから小さなところへの流れを行くに当たって、すごく明確にシンプルに発信できるものが大綱というのはすごく必要だというふうに思いますので、その辺を非常に配慮いただきながら、今日の意見を次回の大綱案に反映していただきたいなというのがすごく思いとしてあります。

現状、総合計画とか教育ビジョンについても非常に細かに、例えばスポーツのところも、総合計画の基本方針の３つとか、結構細かな表現になっていたりとかもするので、その辺も少し見直す必要があるのかなというふうに思ったのと、あとはキーワード、四日市らしさということに関しては、渡邉委員長がお話をされたような環境というのも１つあるとは思うんですけれども、今現在、教育委員会でもすごく企画してやっていただいているのに、プラネタリウムにもリンクしながらＮＡＳＡの授業をやったりとかという、ああいうのもやはり大きな意味では環境ではあるんですけれども、四日市市外の人から見たらすごくうらやましい教育だと思いますし、またまた教育の効果ってなかなかすぐには出ないんですけれども、宇宙というところにすごく興味関心を持って、四日市からそういう子がまた羽ばたいていっていただいてというようなことも出てこようかと思いますので、ぜひそういった少し先の産業とか未来に向けてわくわくするようなキーワードも何か１つあるとうれしいなというふうに思いました。

○舘政策推進部長　ありがとうございます。

こちらの総合計画のところでスポーツ等々ございますが、実は総合計画、非常に幅が広いものですから、よっかいち人を育むまちというのは、ある意味教育の部分もあれば、一般市民の社会教育みたいなところも全て含んでいるというところがありまして、特に学校

教育の部分については、１番の問題解決能力とか豊かな人間性を身につけるというところと、基本的政策のところの自ら学ぶ力と豊かな心を持ち、たくましく生きる子どもの育成の部分がいわゆる学校教育の分野についての記述になっております。その部分を教育ビジョンではより詳しく、さらに深く細かく記述していただいていると、そういうふうな流れになっております。

○杉浦教育委員　ただ、多分直結するのはその部分だとは思うんですが、この総合計画の基本方針に挙げていただいている４つも、全て学校教育というような視点から見たときにも重要なキーワードが結構あります。地域の誇りを認識というようなところですと、市の文化財を発掘・再認識というようなところも、やはり学校教育の過程の中であると思いますので、この辺にちりばめられている重要なキーワードと教育の部分をぜひすり合わせていただければというふうにも思います。

○舘政策推進部長　そういう趣旨ですね。承知しました。ありがとうございます。

それでは、松崎委員、いかがでございましょう。

○松崎教育委員　私も初めて拝見したのでわからないんですけれども、市役所の政策と、あと、教育委員会の考えとはもちろんやはり共通の目標を持っていくというのはすごく大事なことだと思いますし、こうやってすり合わせようというふうな会を持つことは非常にいいことだなと思いました。

ただ、これが本当に下というか、私たち保護者、子どもまで反映されるかといったら、それははっきり言って厳しいかなと。実際これを見てかどうかわからないんですけれども、子どもがこの間小学校の教育ビジョンというのをもらってきたんですけど、これはこういうふうに校長先生がすり合わせて、先生方が考えてすり合わせているのかどうかわからないんですが、あまり同じような言葉は見受けられなくて、これはいつ私たちの手元によく似たものが届くのかなというか、これだけ私たちに届くのであれば、ちょっとこれはもうあまり子どもたちには直接は関係ないかなと。先生方も多分あまり気になさっていないんじゃないかなと正直なところ思ったんですよ。

○田代教育長　そうでもないです。

○松崎教育委員　そうでもないですか。

それぞれの先生方がこれをご覧になって、かみ砕いて私たちに配ってくださると思うんですね。ただ、これを見てもすごく難しくて、あまりにも細か過ぎて、ほかのお母さんと話していたんですけど、これ、１つずつ見て考えて自分で理解するお母さんってどれだけ

いるかねというような状態だったので、やはりこれをまた校長先生が私たち親に一つ一つわかりやすく説明するように時間をとってくださるなり、もうちょっとこれも学校に説明を加えてくださるような配慮をしていただけると、これがもっと生きるのかなという気がします。

それと、やはり新しいことをやっていくというのはすごくわくわくすることですし、うれしいなと思うんですけれど、せっかく今までやってきたことというのもたくさんあると思うので、それももう一回見直して、本当にできているのかどうかということは改めて見直すべきじゃないかなと。

先ほどの早寝早起き朝ごはんにしても、基本的な生活習慣もできていないのに、豊かな人間性だのどうだのこうだのと言葉で躍ってしまうというのはどうかなと思うので、やはり既存は徹底させて、せっかくある今のいろんな環境で恵まれている部分は精いっぱい利用していくというか、もちろん未来館は全校で全員が見る機会を与えていただきたいなと思いますし、今までの何かそういったハードの面のものは全員が利用できるように、そういった政策を考えていただきたいなと思います。

○加藤教育委員　ちょっと関連していいですか。

今、松崎委員おっしゃったように、もしも保護者の方に学校のビジョンなり、あるいは今までだったら教育委員会がつくる学校教育ビジョンが十分に浸透していないという１つのご指摘をいただいたと思うんですよね。だから、これからの戦略においても、やはり一番当面教育に関心を持たれるのは現に子どもさんをお持ちのお母さんやお父さん方ですので、やっぱりそこにいかに浸透させて、これからできてくるであろう大綱にしても、あるいはそれぞれの学校教育ビジョンにしても、校長以下職員が一丸となって保護者の方々に浸透させる手だてももう少し考えていかなければいかんのかなというのを改めて、今おっしゃったことで、素晴らしいご指摘だと思いますので、それを生かさないと本当に絵に描いた餅といいますか、ひとりよがりで我々だけが満足して、本当に子どもの力にならない、子どもまで浸透しないということですので、ぜひそのあたりは具体的な手だてでもって、一遍各学校へ、特に教育委員会事務局はおろしていただきたいし、指導いただきたいと思いますね。

○田中市長　本当にそのとおりで、行政は教育に限らず、計画とかビジョンとかをつくると、それで自己満足してしまって、それがもう全然浸透していなくても、そのままほったらかしということが往々にしてあります。本来は、学校教育ビジョンは、各小中学校にき

ちんと伝わって、校長先生も先生方もしっかり把握した上で、それぞれの学校の教育ビジョンをつくっていただいているはずですね。さらに、それを保護者の皆さんとか地域の皆さんにもわかってもらえるように浸透させるのが本来の姿なんだけど、現実はなかなかそうなっていない。それを現実にそういうふうになるようにする努力がもっと必要だということは本当に思います。

○舘政策推進部長　今回、大綱をつくるといういい機会でございますので、そういうふうなことを取り組んでいきたいと思います。

○加藤教育委員　本当に具体的に、じゃ、校長がしゃべり出したらいいのかといったら、そんなことでもありませんので、本当に、いかにどんな手だてでどうするかというのをもう少しかみ砕いて考えておかないと、せっかくのいいものが、まずは子どもにきちっと伝わらないかんわけですので、１年生の子は１年生の子なりに、６年生は６年生なりに、僕らの学校と誇りを持ってもらうことは、ひいてはこれは四日市市を誇りに思うことにつながりますので、そのあたりを、説明せい説明せいと言うだけではやっぱりいけませんので、具体的な手だてでもって、それこそそれに一定の予算なり援助もしながら、やっぱり浸透する手だてって真剣に考えていくのも一番大事なことかもわかりませんね。

○田中市長　基本はわかりやすくということだと思います。言葉もそうですし、体系もそうですけど、わかりやすくないとやっぱり頭に入りませんし、実践にもつながらない。

○舘政策推進部長　杉浦委員もおっしゃっていただいたように、読んだときに同じ意識になることは大事ですね。

○杉浦教育委員　ただ、大綱自身、書いていただいていますけど、教育の目標や施策の根本的な方針を示すのが大綱ということなので、現場の生徒までというわけにもなかなかいかないと思いますけれども、現場の人たちが大綱のここの部分からきている教育なんだなというようなところは明確にわかるようにはしていただきたいなとは思います。

○田中市長　体系ですね。

○杉浦教育委員　はい。

○舘政策推進部長　教育長、何か。

○田代教育長　まさに、今、市長や加藤委員、杉浦委員おっしゃったことがほぼそういう状況に今なっているんですが、ただ、松崎さん、学校教育ビジョンというのは、当然各校長先生たちはまずこれはしっかり読み込んでもらう。当然こういうのをつくってくるのに校長会の代表の人とか皆さん入ってもらって、校長会でも何度か見てもらって。今言われ

た羽津小学校の、〇〇小学校、〇〇中学校の学校教育ビジョンというのは、これをベースにしながらブレークダウンして、その学校の、先ほどから出ていますオリジナルといいますか、その学校ならではの部分も入れながらつくってくださいということに教育ビジョンはなっているわけです。その作成の仕方は、ご存じのように、四日市版コミュニティスクールがあるところは運営協議会、地域の方とか保護者の方も代表者は何人か入っています。コミュニティスクールがないところは協力者会議という形で、何人かの方、地域の方も入って、これを承認を得る形で見ていただいて、意見をもらってつくっています。

ただ、承認をもらったとはいえ、現実的にそれが一般の皆さんの保護者の方たちにしっかりブレークダウンしていなければ、それは絵に描いた餅になりますので、だから、もっと、例えば保護者会のときとか、最初つくったときにいろいろそれをフィードバックするとかいろんなやり方があると思うんですが、それが今のご指摘で、少なくともそこは十分ではないかなというご指摘だと思います。それは非常に今後やり方についてしっかり考えて具体策を講じていかないと、皆さんの家庭にもおりていないということになりかねませんね。それが１つと。

それと、この第２次学校教育ビジョン、１７年から第１次が来て、今、第２次になっています。この第２次学校教育ビジョンは、一応これは今年度までで、今現在、第３次の学校教育ビジョンをつくろうとしています。この前、教育委員会の定例会で少し見ていただきまして、いろんな意見をもらっています。まだ、特にこの下の部分について、グリーンの部分については、柱立ても少し変えていくというふうなこともこの前ご意見をいただいて、まだこれはさっき出てきたキーワードに入れ込むということもまだまだ十分可能だと思います。今日は１つの例、環境の例が出ましたけれども、そういったことも入れ込んだ形で組み立て直すと。第３次の学校教育ビジョン。

総合計画は一応１０年ターンでなっていますので、これを簡単に作文だけ変えるというのは多分なかなか難しい部分もあろうかなと思いますが、特に下の学校教育ビジョンは、つくりかえるとちょうどその作業になります。四日市はそういう形になっていますが、一方で、学習指導要領の改訂が来年出てくるということで、そういった動きがあります。だから、そういったこともきちっと四日市市が取り入れる部分といいますか、それを踏まえてつくりかえていくという作業にかかっていますので、さっきのキーワード、上を大幅に変えてしまうというのは、ちょっと逆に舘部長のところが困るかなということもなきにしもあらずかなと思ったんですけど。

○舘政策推進部長　大綱をつくるわけですから、総合計画を変えるわけではありません。

○田代教育長　総合計画は総合計画でありますよね。特に下のほうはかなりね。

○舘政策推進部長　もちろんそのままですが、大綱はいいと思います。その大綱に基づいて、次に第３次の教育ビジョンをつくっていくということになれば、ある程度そこも見込んでおかなければいけないというのはあろうかと思います。

○田代教育長　そうやっておっしゃっていただいたら、ここの上の部分もかなり変えるということが可能であるということですね。

○舘政策推進部長　このとおりですね、大綱ですから。

○田代教育長　そうやって言っていただくと非常に気分的に楽になります。

○舘政策推進部長　以上でご意見を頂戴いたしました。ありがとうございました。

まず今日はご意見を頂戴いたしました。いただいたご意見をこれからつくる素案に少し盛り込ませていただきながら、事務局で案を作成してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたしたいと思います。

それでは、３番の大綱につきましては以上にさせていただきます。

４　学力向上について

○舘政策推進部長　それでは、次、４番の学力向上というところでございます。

本市の教育における取り組みを強化するということに関してこれから大綱を策定していくわけでございますが、その理念に基づいて、何か具体的なテーマに基づいた実施計画を策定していかなければならないというふうに思っております。今後より一層の取り組みを進めていくテーマといたしまして、常々市長も申し上げております学力向上というところを事項書に記載をさせていただきました。

この策定に向けては、まず市長から学力向上に向けての趣旨について述べさせていただきますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

○田中市長　私ばかり先に申しわけないですけれども、さっき加藤委員のご指摘があったように、ここで学力向上についてというふうに言ってしまうと、やはり誤解を招く可能性があるので、この学力はあくまでも狭い意味で、世間一般で使っている学力と同じ意味にして、違う言葉で入れかえたほうがいいのかなと。問題解決能力でもいいんですけれども、もうちょっと簡潔にわかりやすい言葉だとしたら、今僕の思いつきで、これは変えてもらっても大いに結構なんですけど、例えば人間力とか、たくましい人間力の養成とか、そう

いう言葉に入れかえて、その中に狭い意味の学校で学ぶ学力も入っておりますと、そういうような位置づけにしたらどうかなと、今ふと思い立ったんですけど、これはまた議論をしながらということでお願いしたい。

全国学力テストでの成績上位を目指していくということも１つテーマとしてあるものですから、それも含みながら、生きる力、共に生きる力を育む人間力の育成、養成という意味での、１つ、アクションプラン、それを具体的に議論するような、この大綱を踏まえた上で、それを１つの大きなテーマとして、今年度、２７年度で取り上げてもらえればありがたいなというふうに思っています。

いろんな、皆さんにも考えておられる方法や手段があると思うんですけれども、今日は１回目ですので私から、自分自身が考えている人間力というか、知恵、生きる力、共に生きる力を育むために、そういった能力を養うための方法として、例えば、これは以前から読書を私は大いに推奨はしておるんですけれども、単に本をたくさん読んで、読みっ放しで終わるというのでは効果は極めて限定的だというふうに思いますので、じゃ、どうしたらいいかということですが、読書感想文というのは、私が小学生、中学生のころはよく夏休みとか冬休みとか春休みに本を読んで、感想文を先生に提出したというのがよくありましたけれども、それはそれで１つ大きな意義があると思うんですが、本を読んだたびにそれをやらせるのはちょっと子どもに負担が大きいと思うので、読書後、読んだ内容を要約して、そして、自分自身の感想とか考えも合わせて、１分間という非常に短い時間ですけど、１分間でまとめて、みんなの前で発表すると。それで、あと、担任の先生なりがコメントしたり、みんなで議論したり、これは１分間コメントというんですけれども、それをもっと拡充するということが１つ方法としてあるのかなと。

これは既にモデル校として何校かでやってもらっているんですけれども、私は、この１分間コメントによって、読解力、要約力、思考力、表現力、判断力、あらゆる人間として必要な能力が養えるというふうに思っていますので、これにちょっと力を入れたいなと私自身はそう思っています。この題材は、本を読む読書だけじゃなくて、もう一つ非常に有効な手段として新聞記事があると思うんですよね。新聞記事の抜粋をみんなで読んで、それぞれ１分間コメントで何人かが発表して、それで議論をすると。これをやることによって、非常に今言ったような能力が身につくというふうにも思うので、読書と新聞記事を活用した１分間コメント。これを１つ提案したいなと思っています。

それから、ほかにも、電子黒板を全国に先駆けて導入しましたけれども、ＩＣＴ教育で

あるとか、それから家庭学習の充実ですね。私が子どものころに比べると、今の子どもたちは非常に家で勉強する時間が短い。ゲームとかスマホを触っている時間が多いからそういうふうになってくるんだと思うんですけれども、やっぱり家で真剣に勉強する時間を量的にも増やさないかんというふうに思います。

それから、今年度から月１回、本格的に土曜授業がスタートしますので、それの効果的な活用というのも１つあろうかなと思います。

皆さんからいろいろ知恵をいただきながら、冒頭、私、学力向上アクションプランの策定というようなことを言いましたけれども、これもやっぱり名称を統一して変えていくべきかなと思いますので、その辺も含めて、ひとつ今後の議論につなげていただければと思っています。

以上です。

○舘政策推進部長　ありがとうございました。

この学力向上でございますけれども、簡単な資料をつくっておりますので、事務局から説明をさせていただきます。

○吉田教育監　もう一枚の、上が緑になっておりますＡ３の資料をご覧いただければと思います。

今、市長も、この名称を変更とか、いろいろ今後柔軟に考えていきながらということですので、あくまでも案という形で今示させていただいていますので、その辺はご理解いただきたいと思います。

四日市の子どもたちがつけたい力ということで、問題解決能力、ここは非常に大事だというふうに考えておりますし、文部科学省の学力の３要素ということで、基礎・基本的な知識、技能の習得や思考力、判断力、表現力、それから学習意欲、こういうのが３要素でありますので、そういうようなところのかかわりも含めて、将来生きて働く学力という形で捉え直していく必要があるかなというふうには思っております。

そのための２つのアクションということで、１つは学びの環境の充実、そして、もう一つが学びの質の向上というような形で示させていただいております。番号１、２、３、４、５というふうに振らせていただいていますが、この番号はこれが優先順位ということではございませんので、そこだけはご理解いただきたいと思います。

一番初め、学校の役割ということで、非常に私ども教育委員会としましては、就学前と小中学校の連携した一環教育、これに力をずっと入れてきておりますし、非常にこれも全

国でも非常にうまく活用されている。ただ、さらにこれを充実させていく機会をもっと持っていかないといけないなというふうには思っております。

先ほど、そのことに触れて授業改善・授業力向上とか、以下そのようなことが書いてありますが、また、もちろん三重県の中では第一都市ではありますが、いわゆる３１万人都市という中で、大きな都市ではありますが、まだコミュニティーがしっかりして、非常に家庭や地域のご支援もいただける土地柄でございますので、そのようなところから底上げをしていく。

また、行政につきましては、先ほど市長も触れていただきましたが、ＩＣＴ機器教育というような部分での充実も図っていく必要があるであろうと。それから、右側のことで、学びの質の向上ということで、今、特に文部科学省からも言われておりますが、学んだことを実生活に生かしていくような教育力、こういうものが大事だということで、私どもは、特に３番の中にありますように、四日市のコンビナート関係の企業等と連携しましたことやらＪＡＸＡとの連携にもありますような、学びの充実を図る機会も今継続してやらせていただいておりますし、そのようなことを今、最後のところですが、１分間コメントというようなところも入れさせていただいて表示をさせていただきましたので、ご検討いただければと思います。よろしくお願いいたします。

○舘政策推進部長　これにつきまして、今後、事務局で懇談会を設置していくということでございますね。

○吉田教育監　はい。あわせて学力向上のための懇談会を今後開催していきながら、本日協議していただいた内容を含めて懇談会で深めていただくという計画でおります。それをまた総合教育会議に戻して、協議、調整をしていただくという予定としておりますので、ご理解いただければというふうに思っております。

○舘政策推進部長　これはまだあくまでも学力向上に向けた構想の案でございますので、たたき台でございますが、これをさらに懇談会でたたいていただくということでございます。それに先立って、今日各委員の皆様方からご意見がいただければというような思いがございますけれども、先ほど市長からも発言をいたしましたので、どうでございましょうか、その他の委員の皆様方で、学力向上に向けた構想に対する、これはまだこれから議論でございますので、何か気がつく点とかご意見がございましたら、ご発言いただければと思うんですけれど、いかがでございましょうか。

○杉浦教育委員　まず、上の緑で囲まれているところの文章なんですが、自身が身につけ

た知識・能力、おそらくこの知識・能力というのは狭義の意味での学力を指すのかなというふうに理解したんですが、それを実社会で応用するとともにというところで、応用という言葉の中に、先ほど来から出ています、いかに知恵を働かせるかというところなんだろうというふうに理解しました。文章として、応用するとともにということで並列しながら、他者とかかわりながら問題を解決していくというふうにあるわけなんですが、実際に学んだ学力を実社会で応用する知恵をつけるためには、先ほど私が言った想像力というのもあると思うんですが、その知恵をどういうふうにして、学ぶ機会を教育の現場で生み出していくのかというあたりが必要なのかなというふうに思いました。

長いスパンで見たときに、例えば１つとして、他者とかかわるということも、昔に比べると今の子どもたちは非常に限定的な年代の方とのかかわりしか持たない世帯構造になっておりますよね。なので、多世帯で住んでいたりとかすると、おのずと年配者の方がやっていて生活に生かしている知恵を見ているので、その知識が知恵へと融合するというような場面が過程でつけられたのかなと。ただ、やはりそういうところも核家族化したりとか、共働き世帯が増えたりというふうなことになってくると、生活から学ぶ学力を応用する知恵がなかなか得られないというところもあろうかと思いますので、その辺も何かしら配慮した取り組みが必要なのではないかなというふうに感じました。

○舘政策推進部長　ありがとうございます。

他の世代というか、大人とかいろんな人とかかわり合うようなことですね。そういう力ですね。

○渡邉教育委員長　今の子どもとか若者、本当にそう思うんですよ。大学生になっても、例えば大学の窓口の事務職員の方とちゃんとコミュニケーションできない、そういうことが実際あるんですよ。そういうことがさらにだんだんと頻繁に、事務職員の人が困ったなということを言われる。ところが、そういう子が学力がないかというと、決してそうではなく、いわゆるテスト、試験では結構な試験を合格してきた学生がそういうことになっているんですね。それはなぜなのかということ、そこのところをやっぱり、杉浦委員が今言われたようなところの、家庭の中で学ぶというか、お年寄りとかほかの世代の人たちとかいうのと接する機会が非常に少ない。それで、若い両親は共働きであまりいないと。そうすると、親とつながって、一緒にコミュニケーションをする時間も非常に短いですよね。だから、どうしてもそういうことに細ってきているんだろうなというふうに、これは私、想像するんですよ。

だから、そういう意味で、社会人になっても通用する問題解決能力ということの中身というのは、やっぱりこの辺のところが非常に現代の社会で弱くなっているので、そこが非常に鍵かなということを私は思うんですね。まさに生活の中から学ぶ知恵というのをどういうふうに養っていくかというところがかなり重要な点だ。そこらがやっぱり学びの質の向上に、やはり大きく基礎的な力として働くんだと思うんですよ。先生の授業を聞いているつもりなんだけど、そのことの言葉の意味が理解できなくて空回りしているといいますか、そういう子がかなりウエートとして高くなっているんじゃないかなという気がするんですよね。

○田中市長　大学生ぐらいになってからだと本当に遅いので、やっぱり小学生、中学生ぐらいのときから、私、最初のほうでも言ったかもしれませんけど、自然体験とか社会体験とか、もう一つ生活体験、家庭の中での何か手伝いをしたり、家族のだんらんであったり、そういう生活体験をひっくるめて実体験、それがやっぱり小さいころから必要で、それがあるのとないのでは大分結果が変わってくるんじゃないかなと思いますよね。皆さんと同じ気持ちです。

○加藤教育委員　私もまさにそのあたりで、やっぱり２０年、３０年前の子どもたちと今の子どもたちを比べたときに、学べる場が極めて限定的になってしまった。もう学校しかなくなったというのが現実ですし、社会の考え方も変わってきて、おばあちゃんが孫に何か教えようとすると、やっぱり嫁さんから拒否をされると。おばあちゃんも出る場がないと。そんな現実や、これも社会の変化で構成が単に変わっただけで、ちゃんと３世代住んでみえるおうちでも、やっぱりそういうちょっとぎくしゃくしたところが出てまいりますので、そうなったときには、今日のこの案で示していただいた２番の家庭、特に地域の役割というのがやっぱりもう少しクローズアップされてくるんだと思いますし、四日市版コミュニティスクールというのもまさにここへ来ますし、自分の孫には嫌われても、やっぱりお年寄りが小学校なりに来ていただいて、ほかのお子さんとしゃべるときにはやっぱりそれはすごいことをいっぱい教えていただけますので、あのあたり、四日市版コミュニティスクールをもう少し本当に、前にもある教育委員会議のときにも申し上げましたけど、学校応援隊だけで今終わっていますので、あれをもう一歩深めるような手だてで地域の方々への学校教育へのかかわりというのを増やすと、これはやっぱり子どもの学びの場が、あるいは学び方の場がまた広がって、当然大人の人としゃべる機会も増えるわけですから、いいことではないかなというふうに思っていますので、これはやっぱりもう少し具体化を

進める、これも四日市の子育ての大きな柱になってくるのではないかなと思いますね。

それと、私も冒頭申し上げた４番とか５番に書いていただいてある、案として書いていただいてあることというのは、まさにプラスアルファの四日市ならではの学びといいますか、そういうことが幾つか挙げてもらってありますので、これを単発的に打っていくのでもそれなりの効果は期待できるんですけど、やはり子どもたちの発達段階に応じてタイムリーに学ぶべき、あるいは体験すべき事柄を順序立てて計画していけば、一定の期間でそれなりの効果も出ますので、そのあたりはぜひ今後、具体化に当たって、まさにアクションプランだと思いますけど、必要なのかなというふうに思いました。

○舘政策推進部長　ありがとうございます。

○杉浦教育委員　今、発達段階に応じてと加藤委員おっしゃったんですけど、まさにそれはそのとおりで、全てにおいて発達段階に応じたものは何にしていくのかで、ここに例えば活字になっているキャリア教育というような言葉であっても、やはりこれも、ずーっと幼保、小中というところの発達段階に応じた場合にどこを目指すべきなのかというところを、ぜひ同時に進めていただくというところも随分四日市のオリジナリティーが発揮されるのではないかなというふうには思います。

○加藤教育委員　一見狭義のキャリア教育は中学校２年になってからとか、３年生になってからとかという話があるんですけど、私は本当に、委員おっしゃるように、幼児期でのキャリア教育の芽生えみたいなことは当然人とのかかわりが主になってくるんだと思いますし、小学校の低学年は低学年なりに。だから、そういう意味では、本当に６・３の義務教育というのは、全て私はキャリア教育と捉えられるのかなと思うことはたびたびあるんです。

○杉浦教育委員　なので、本当に狭い意味での職業教育ではないというような認識でぜひお願いをしたいというようなところで。

○加藤教育委員　まさにここで言う問題解決能力もそのとおりになってくると思いますので。でも、キャリア教育と使ってしまうと、やっぱり受け取り側の人が……。

○田中市長　イメージがそういうイメージになってしまう。

○舘政策推進部長　言葉を１つずつ大事にしないといけないですね。

○加藤教育委員　大事な言葉だけは、四日市が考える言葉の中身は、範疇はこうですよということをやっぱりどこかで定義していただくと良いと思います。使う使わないは別にして。

○舘政策推進部長　きちんと意識は皆さん一緒にしないといけないですね。

○加藤教育委員　あるいは、今後こういう場で議論をいただくときでも、やっぱりそれを踏まえて議論をしないと、加藤のイメージと杉浦委員のイメージとは若干ずれると、やっぱりせっかくのことがまた、皆がばらばらになってしまうと懸念されますので、ぜひそういうことも事務局である程度ご努力いただくとありがたいなと思います。

○田中市長　最も適切な言葉を選んで、それでもなかなか意思が統一されない場合もあり得るので、この定義はこういう意味ですよという解説をつけるということは大事と思いますね。

○舘政策推進部長　その辺も注意をさせていただきます。

ほか、よろしいでしょうか。

○田代教育長　今、加藤委員もおっしゃっていただいているそういった内容を、実は私が最初にお話ししました教育再生実行会議の第６次の提言の中に、単語としてはアクティブ・ラーニングという用語、これはどういうことかというと、今度は少し視点を変えて、例えば学力向上にしても、問題解決能力にしても、子どもたちにいかに先生方が授業の中で取り入れて、それを子どもたちに学ばせるか、育成していくかと。

アクティブ・ラーニングは最近新聞でも出てきていますが、簡単に言いますと、先生による一方的な、どちらかというと講義形式の教育とは少し異なって、生徒たちの能動的な参加を取り入れた指導、学習方法、これは問題解決学習とか、調べ学習とか、発見学習、市長も言いました体験学習、こういったようなやり方が出てくると。もうちょっと横文字で言いますと、グループディスカッションやディベート、あるいはグループワーク、こういう共同で学んで、１つの正解ではないにしても、合意を得ながら１つの道を見出すと。

ある意味、新聞では、これからは必ずしも正解のない時代がやってきているというふうな捉まえ方をしています。実は６次の提言の中に非常に重要なことが隠されていると思うんですけれども、大学入試改革というのもちらっと新聞で皆さん見ていると思うんですが、単なる偏差値教育の点数だけでこれからは大学が、入試が評価されるということではなくなってくるということがそこの中に書かれています。それは私たちが言っている狭義の学力じゃなくて、もう少し、人間力と市長言いましたね、あるいは態度とも言われましたけど、そういうものも１つの広義の学力ということが、そういう考え方が出てきています。

例えば、せんだって委員長と県下の教育委員長と教育長が寄る場で道徳教育について話を聞く機会があったんですが、そこで国立教育政策研究所の西野さんという方がお話しさ

れたんですけれども、やっぱりそこに、道徳教育においても随分それが変わってくると。単なる本を読むというような形での道徳じゃなくてやっぱり考えるということですね。もっと広義なことで捉まえないとだめだと。道徳も教科になるんですから、これも一般の国語、算数と同じですよね。ところが、点数では評価しにくいですよね。じゃ、どう考えるか。そのキーワードがアクティブ・ラーニングというふうに言っていました。

その中に、また一度見ていただくといいんですけど、教育方法の――いわゆる先生方ですね――質的転換という書き方がされていました。それはどういうことかといったら、学習観の転換ということで、人はいかに学ぶかです。何をじゃなくて、人はいかに学ぶかということが書かれています。

それから、問題解決学習のプロセスへの注目と。うちが今議論しています問題解決能力と言っていますが、プロセスへの注目と。そこの中に、杉浦委員言われました、多様な他者と共同で、つまり、地域の方とか世代の違う人、共同で問題を解決しようとする学習の繰り返しの中で新たな価値を発見、創像すると、そういう可能性が出てくると。

そして、最後に、コミュニケーションの道徳的価値という項目でくくっていましたけど、随分この考え方が出てくると、それが私は次の学習指導要領の中に一定反映されてくると。つまり、現場の先生たちに、今までの指導方法ではそれが変わってくるよということが随分色濃くなって出てくるような気がしています。この辺を踏まえて、大綱もつくっていく必要があるのかなというふうに思っています。ちょっと教育委員会サイドのことで恐縮ですけど、そんなふうに今思っています。

○田中市長　道徳も正規科目化に伴って、国も議論型の道徳教育ということを言っていますよね。だから、道徳に限らずほかの教科も、やっぱりアクティブ・ラーニングというほぼ議論型の教育が必要かなというふうに思いますよね。一方通行じゃなくてね。

○田代教育長　まさにそのとおりです。この間はあくまで道徳にポイントを絞った話でした。こういうペーパーをもらってきたんですけど。委員長、どうですか。

○渡邉教育委員長　ほかの科目でもそうなんですね。だから、やっぱり本当に基本は、答えは１つじゃないよ、そういう時代なんだと。そういう時代に生きていく、担っていくような子どもたちには、やっぱりそういうディベートだとかディスカッションだとか。

○田代教育長　今もやっていますけど、それをさらに。

○渡邉教育委員長　やっているんですけど、やっぱりそういうものを通じて学力も学んでいくという、そういうふうに展開しないと絶対いけないでしょうというような議論をこの

間西野さんの話から聞かせてもらったんですね。

○田代教育長　市長、この間、４月９日の新聞に、子どもたち、中学の教科書にこういうのがある、私は市長です、赤字バス路線に税金を使うということをテーマにして中学生の子どもたちが議論すると。こういうようなことが求められてくる、こんなようなイメージですね。

○渡邉教育委員長　私が市長だったらどういうふうにこれをさばくのかというような、そういう切り口から子どもたちに書かせておるわけですよね、それを。

○田中市長　議論をするというのは、多様な意見があるということをお互い認め合うわけで、今いろんな事件とか起きていますけど、それを少なくする効果もあると思う。

○田代教育長　難しいと思うんですけど、現場の先生がそれをいかにして子どもたちにやっていくかと、授業の中で。

○加藤教育委員　でも、そういう意味では、もう既に四日市の場合は、５番の①で書いてもらってありますように、問題解決能力向上のための５つのプロセス、これを四日市モデルという立派なのをつくってもらってありますし、あれをやっぱり現場で１年生から６年生、中１から中３へどう先生方がつなげていただいて、まさにまだ発達段階にありますけど、１年生は１年生なりにここまでは高めましょう、ぜひ２年生を担任された先生は次にお願いしますというふうな、ちょっとそういう教室の本当の申し送り、引き継ぎを、そのあたりを重点的にやっていただくと子どもの力は着実にいくんですか、５年生の先生は一生懸命になってやられました。でも、散発的になってしまって、もう二度と後にも先にも出てこないという現状があったとしたら、これは非常に子どもにとって不幸なことですので、やはり１つのやり方として、学校を挙げて、それから四日市を挙げて取り組めるように支援をしていかないといかんのかなと思いますし、まさにディベートとか議論とか、双方向の授業というのがまさにこのあたりもありますので、ただ、これを本当に中学校にいきなりやっても、やっぱり小学校の積み上げがなかったら子どもは育っていませんので、何か形式的でこんな授業はつまらん、先生、教えてと生徒から逆に音を上げてしまいますので、小学校の低学年の段階から、こんなふうに授業をするとこんなにもおもしろい、楽しいと、そういうふうな姿が見えてこないと本当に期待するところは出てきませんので、今、教育長がおっしゃった、まさに道徳に限らず、本当に学び方はこうだと思いますね。

○杉浦教育委員　今、大学にもアクティブ・ラーニングの風潮というのはすごく色濃くおりてきています。アクティブ・ラーニングは道徳観とかそういったところとか、他者理解

というのももちろんそうですし、それこそ検定試験の合格率を高めるのにもアクティブ・ラーニングが成果があるというようなところも言われたりとかして、いろいろな大学で注目をしているところなんですが、一方で、よく、大きな大学になればなるほどなんですけれども、教室の確保ができないという、結構アクティブ・ラーニングを本格的にしようと思うと、そういった教育環境というものも同時に並行して整備していかないと、なかなか授業が成立しないというようなところが大学では意外とネックになっていたりとかもしますので、ぜひ議論を進めていく中で、そういった環境、場の整備というものも並行してご議論いただきたいなとは思います。

○加藤教育委員　自分の強みと弱みに気づくことがやっぱり大事ですので、子どもにとっても。そうすると、次の新たな目標設定も出てきますけど、自分は何が得意で何が長所で何が強みだということが、それこそ大学生でもこんなのですよということは委員長おっしゃられましたけど、やっぱり自分の強みと弱みをきちっと把握させる、まさにアクティブ・ラーニングはそこでしょうから、検定まで使われるというのは、まさに強みと弱みを明確に伝えれば、弱みを克服すれば強みに変わることになりますので。

だから、学び方というのは大事になってきますね、より一層。今もやってもらっていますけど。

○舘政策推進部長　今やっている取り組みをもう少しきちっと書くとか、もっとより親切に書く。

○松崎教育委員　１つだけなんですけど、本当にいろいろと考えていただいたり、アクティブ・ラーニングとかも、そういった素晴らしいアイデアなども挙がってきていたりして、これだけあれば絶対に四日市の人間は素晴らしい人間が生まれるに違いないと思うんですけれど、１つだけ保護者として、親として授業を見ているときに非常に気にかかるのが、こういった素晴らしい環境を与えてもらって、いろんな経験をさせてもらっているはずなのに、授業の中で授業をきちんと受けられない子が非常に多いということを忘れないでほしいなと思いまして。

この間も授業参観があったんですけれども、やっぱり前を見られない、話は全く聞けない、そういった子がクラスに、小学校４年生の話なんですが、数人やはりいるんですね。その子たちに幾らいいものを与えてやっても、聞く力というか、聞く姿勢とか見る姿勢といったことが全くというか、できていませんので、その子らでクラスのみんなも引っ張られてしまって、先生方もその生徒に一生懸命になって、なかなかいいものがほかの子たち

にも伝わらないところがありますので、できれば、こういった学びの環境の充実の中に、人の話を聞く姿勢とか、見る姿勢、根本的なものをまず身につけるという、生活習慣とも若干関係していると思うんですけれども、根本の根本ができていない子が非常に多いと思いますので、それはどこかに入れていただくなり、忘れないで先生方にも伝われば。

先生方も非常にその辺は困っている状態なので、ぜひとも教育委員会で何かいいアイデアがあれば挙げていただきたいぐらいで、その辺がひっかかっていると、なかなか素晴らしいものも子どもに入っていかないなという気がしますので、何かいい方法があればなと親として非常に悩んでいるところです。

○田中市長　今おっしゃったような聞く姿勢もそうですが、ほかの生徒で一見聞いているように見える生徒でも、最初委員長がおっしゃったような、何のために勉強するのかという一番の根本のところ、そこが全然意識の中にないために、ただ先生を見ているけれども、何も考えていない。学ぶ姿勢の問題、学習意欲の問題で、これも大前提として絶対必要だと思うんですよね。

幾ら有効な、効果的な学習方法を考えて実践しても、肝心の子どもたちがそれを受け入れて学ぶ意欲がなければ、砂漠に水を与えているようなもので、それではつまらないので、やっぱり最初の、何のために人間は学ぶのかというところにもちょっと焦点を当てて、なかなかこれは難しい問題ですけれども、避けて通れないと思うので大事かなと思います。

あくまでもこれは私の私見ですけれども、答えにはなっていませんけど、１つの考え方としては、やっぱり人間としてこの世に生まれてきたからには、自分の夢とか志、目標、これを実現して、人や社会のためにも貢献すると。そういうことによって、難しい言葉で言えば自己実現だけど、それは社会や人のためにもなるし、自分自身の人生の幸せにもつながると。それを大きな志なり目標に掲げようとすれば、それを実現するためにはやっぱり学ぶということ、学習を積み重ねるということは必要不可欠なんだということを子どもたちにわかりやすく理解してもらう、それがやっぱり出発点としては必要なのかなというふうに私は思う。

その中で、やっぱり夢とか志、目標を持つためのインセンティブも必要だと思うし、このインセンティブをどうやって与えるかというのも課題で、先生が魅力を高めるということも必要だし、さっきから出ているような自然体験とか社会体験とか、そういう体験学習もそういうインセンティブを持つためのきっかけにもなるかもしれない。だから、まず何のために勉強するかということの動機づけと、それから、そのための目標、夢を持つため

のインセンティブ、これをいかにして子どもに持ってもらうかと、その辺もひとつこの中に盛り込めればいいなというふうに、個人的にそう思っています。

○渡邉教育委員長　さっき教育長がちょっと紹介された、この間の教育長教育委員長会議の研修の場でも、西野さんの話の中で、道徳を学ぶということの評価はどうするんですかというようなことをいろいろ言うんだけれども、それはそういうレベルの話じゃないと。その子がよりよく生きようということで、こんなふうによくなったよということを先生が見てあげると、それが評価だと。だから、なかなか先生は難しいんだけどね。なんだけど、まさに自分自身が、ああ、よりよく生きようと、そのためにもうちょっとこの辺を調べて勉強したいなと、学びたいなという気持ちが自主的に起こってくるような、そういうことにうまくスイッチが入る。そうすると、やっぱりそれがアクティブ・ラーニングみたいな話なんだなということをこの間の研修で、私、勉強させてもらったんですよね。

まさに今の話はそれなんです。聞く姿勢というのは、好きな先生の話ならしっかり集中できるとか、そういうことはあるんじゃないんでしょうかね。このごろの子どもはやはりどうもそういうようなのか、いわゆる愛着障害というようなことが心理学であるそうなんでして、本当に親に抱き締められたことがない、放置されている。ただ、お金というのか、食べ物だけ与えられて、それだけで体だけ大きくなっていくというような子が、どうもそういうような根本的な、そういう学ぶ意欲とかよりよく生きようという意欲がないということにつながっているんだということを最近非常に言われているんですよ。だから、そこらのところを、先生たちも大変なんだけれども、一人一人の子に本当に愛情を持って語りかける、その中で学ぶ意欲が出てくるという、私、非常に最近気がしているんですよ。

○杉浦教育委員　さっき松崎委員のご指摘があった切り口なんですけれども、もちろん学ぶ意欲ということに芽生えさせるというのももちろんなんですが、先ほどから、多分加藤委員も一緒だと思うんですけど、キャリア教育の中でも発達段階に応じたというようなことを繰り返しお話ししましたけれども、人の話を聞くとか、あるいは授業中立ち歩かないとか、提出期限をしっかり守るとか、あるいは学年が高くなってきたら、先生がばーっと言ったことについて効率よくメモを要領よくとるとか、そういったのもみんなキャリア教育だと思うんです。結局は、社会に通用する学力というふうに市長もおっしゃいましたけれども、経済的に自立をしていくに当たって必要な力イコールキャリア教育としたときに、そういった人の話をしっかりと聞かないと、上司から指示を言われても上のそらとか、全然違う何かをしていたらいけないわけなので、そういったところも含めてキャリア教育の

発達段階に応じた、なので、人の話を聞くというのも幼稚園、保育園とか、そういったところに力がつくのではないかなと思いますので、それぐらいぜひ落とし込んでいってほしいと思います。

○舘政策推進部長　人の話を聞くということも１つですね。

○加藤教育委員　今の落とし込みという言葉でちょっと、その落とし込みが、今日２時間ほどそれぞれの立場でいろんな思いを、私も語らせていただきましたけど、このまま現場におろしたら大混乱ですので、ぜひこれは事務局にもお願いしたいんですけど、今ある学校教育ビジョンをある程度土台にしながら、新たに教育の大綱を定めていくわけですので、今、進行の舘さんもおっしゃったように、市のビジョンもあるけれども、まずそれをもとにしながら教育の大綱を定めるという、どちらも原点はそこにございますので、今日議論になったようなことをよりクローズアップさせるなり、今置いてある言葉をそこに置きかえるなりして、現場がぜひ混乱しないように、そして、何よりも自治体に教育をいただく校長先生をはじめ現場の先生方がすーっと受け入れてもらって、これならやれるよ、我々もという、そうならないとえらいことになりますので、ぜひぜひ事務局の方はそれぞれの皆さんの思いでいっぱい価値を語って今日はいただいておると思いますけれども、それを今あるものに少しアレンジしてもらいながら、まず浸透させることが大事なのかなと思いますので、そういう意味では、委員の皆さんというか、今日会議された皆さんもある程度そこらは認めていただいておらないと、全く新しいことをどんどんやっていきますと、混乱するのは現場であり子どもたちであるのかなと思いますが、そのあたり、市長、いかがですかね。

○田中市長　今日たった２時間でもこれだけいろんな課題が出てきたので、その課題を踏まえて、どういう課題を乗り越えるための方向性がいいのかという、それを定めるのが大綱であって、それぞれ具体的にブレークダウンして、具体的な方法、手段にしていくのは、その大綱を踏まえた上でこれからの作業だと思うんですけれども、それも、具体的な方法を各現場におろしていくにしても、一遍に全部おろしたら確かに混乱するので、やっぱりある程度は重点的に優先順位もつけて、着実に段階的にやっていくべきだと思いますね。

○加藤教育委員　それをまずご確認いただかないと、事務局、大変だと思いますので。

○舘政策推進部長　ご配慮いただきましてありがとうございます。

　そういうふうなアドバイスもいただきましたが、あくまで大綱、今、市長が申しましたようなところでございます。その中で学力向上については、実質その中の１つの実施計画、

学力向上の部分の実施計画というようなイメージでおりますので、また今日いただいたご意見を、先ほど申しましたように、さらに学力向上の懇談会というのもこれから教育委員会で設置をいたします。その中で、今日いただいたご意見も参考にしながらさらに議論を深めて、またこちらの場に出させていただくと、そういう方向になってございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本当に長時間にわたりまして熱心なご議論をいただきました。本当にありがとうございました。

５　次回開催について

○舘政策推進部長　次に、５番に移らせていただきます。次回の開催でございますけれども、第２回の会議につきましては、８月１９日水曜日、午前１０時ということでよろしくお願いをしたいと思っております。

６　その他

○舘政策推進部長　それでは、長時間にわたりまして、本当にありがとうございました。以上で予定しておりました内容は全て終了いたしました。せっかくの機会でございますので、６番にその他というところがございますが、そのほかにこの場で何かお話しいただくようなことがございましたらお願いします。

○渡邉教育委員長　ここの資料の２の家庭・地域の役割の③のスマホ・携帯、これ、僕は本当に、この間、信州大学の学長がスマホを捨てるのか信州大学を捨てるのかという挨拶をされたというんですね。これは本当に大きな波紋、具体的な問題なんですよ。そのために随分子どもたちの時間が割かれている、コミュニケーションの時間もなくなっている。親ですら子どもに話しかけられないというぐらいまでになっていることが非常に多いという話を聞くんですよね。だから、やっぱりここらの対策なんかは、これ、ちゃんときちっとやれば、ものすごく成果が上がる話であると私は思うんだよね。ここもひとつぜひ、加藤先生。

○田中市長　去年、新ガイドラインで各家庭でルールを決めるようなものがあったと思う。

○田代教育長　ルールを決めるということは大事。青少年問題対策協議会の中でそれも議論していまして、家庭でルールを決める、例えば、夜の９時以降はそれを使わない。もちろん学校にはそれは一切持ってきていませんよ。家に帰ってからやり出すんですよね。

いろんなデータも、全国学調の中にもデータがありますし、市としてもアンケート調査をやりまして、その分析も兼ねてやってきています。対策は、やっぱり学校だけじゃなくて家庭と協力して、保護者と子どもたち、一緒になって、いつもそのときに言うんですけど、子どもにルールを決めようというのに、お父さん、お母さんが平気でやっていると、例えば、食事しながらやっていたら子どもにそういうルールをというのはできませんよと。みんな一緒になって、お父さん、お母さんが家庭でも一緒にこの問題を考えてルールづくりをしましょうと。こんな発言を青少年問題対策協議会でもさせていただいています。これから浸透していくといいますか、ルールづくりですね。

○舘政策推進部長　この中に盛り込んでいくということですね。

○田代教育長　それも当然青少年に入っていますので。

○田中市長　それは家庭学習の充実とつながるわけですよね。

○舘政策推進部長　そこの中の１つの課題として盛り込んでいく。

○田代教育長　その問題をクリアしないと学力向上にもならない。かなりあるんです、関係が。

○渡邉教育委員長　かなりのウエートだと思いますよ。

○舘政策推進部長　わかりました。その辺も気をつけていきたいと思います。

その他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、本日は本当に活発なご議論をいただきましてありがとうございました。これをもちまして第１回の四日市市総合教育会議を終了させていただきます。本当にどうもありがとうございました。

午後　４時１２分　閉会